

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790400378		
法人名	株式会社ホライズン		
事業所名	グループホーム三和		
所在地	福島県いわき市三和町渡戸字峠平33-1		
自己評価作成日	平成28年8月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉ネットワーク
所在地	〒974-8232 福島県いわき市錦町大島2番地
訪問調査日	平成28年9月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームの畑で野菜作りをしており、新鮮な野菜を食べる事ができます。利用者様にも手伝ってもらい、職員と一緒に野菜作りを楽しんでいます。また、協力医療機関が決まっております。24時間対応となっています。入院設備もあるため安心です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

毎日の引き継ぎを丁寧に行い、利用者の理解を深め、常に情報を共有する努力をしている。利用者の支援時職員は、目配り、気配り、心配りに気を付け合い、職員と利用者が協力して作成したカルタを使いゲームをして楽しんだり、利用者ができる事を探したり、工夫したりしている。
利用者は落ち着いて生活していて、穏やかな雰囲気になっている。

Ⅶ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を理解し実践に努めている。	管理者・職員は、理念の基本的な理解を深めている。利用者の支援時の考え方を学びあい、注意点を書き出し、休憩室の目につく所に貼り、毎日読み返し、全員で共有して支援する努力をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣近所の方たちとの交流はできている。	隣近所の人が、採りたての野菜を届けてくれたり、利用者の話相手になってくれたりしている。近くの保育園には、散歩時に寄って顔見せしてくれるように声掛けしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の中学校の福祉体験学習で、認知症の理解や支援の方法を学ぶ機会がある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回テーマを決め現状報告をし話し合いをしている。	利用者の現状や事故の報告をして、意見をもらい、二人体制介助を実施している。正しい手洗い方法を学ぶテーマには、保健所に依頼したところ参加協力があり、指導を受け、職員の理解が深まり、利用者の支援に生かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	利用者様の状況報告をして相談している。	空き室の状況や、利用者の体調や暮らしぶりについて伝えたり、相談して指導を受けている。保健所にも積極的に働きかけ、テーマに合わせた指導を受けたりしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束となる行為について理解している。玄関の施錠は夜のみである。	職員が互いに注意しあい、利用者の見守りを徹底している。利用者の行動に合わせて寄り添い、散歩やできる事をしてもらい、気分転換を計っている。少しでも落ち着いて生活できる工夫をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	精神的、身体的な虐待などいろんな虐待があるが、見過ごされる事がないよう気を配っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護については外部研修で学び、今後活用できる利用者がいれば支援する。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明をし、不安や疑問な点を確認し理解を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	要望等は聞き入れている。その要望等を職員と話し合い運営に反映させている。	家族の訪問時その都度、利用者の日頃の生活状況を話し合いながら意見や要望を聞き取り支援に繋いでいる。家族間で異なる意見の場合は、納得してもらえるよう詳しく現況を説明し対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	時間を設けて職員の意見を取り入れ反映させている。	管理者は常に職員に何でも話してもらえる様気を配り、声掛けをしている。利用者の状態が変化し、食事の時むせりが増えている、との意見に、素早くメニューや調理法を変更し、食べ易い様改善している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の実績や、勤務譲許について把握し、給料に反映させている。また、働きやすい環境作りにも努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の外部研修の参加が少ないので、少しでも多く参加させて、職員1人ひとりの技術の向上に努めたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者と交流のある施設と、研修や情報交換、ネットワーク作りでお世話になっており、今後も充実させたい。		

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始する前にしっかりと話をし、要望等に耳を傾け安心できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の立場として、疑問や要望等を聞き入れて、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームという選択がベストなのか、今までの状況の経過を家族や関係者等と話し合っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしを共に支えるという形で本人を支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と共に支えるという形で本人を支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や、なじみの場所など、本人が大切にしているところは、継続してつながりが持てるように支援している。	日常的に子供・兄弟・親戚等の訪問が多く、これまでの継続的な交流が出来ている。墓参りに行ったり、馴染みの美容室で白髪を染めたり、パーマをかけるなど、一人ひとりの習慣を大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を把握し、良好な関係が継続できるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、関係性を大切にしながら、必要に応じて利用者や家族の相談や支援ができるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1人ひとりと話す機会をつくり、希望や意向を聞きとっている。	一対一の対応で話し易くなる入浴時に思いを聞くことが多く、全職員で共有・話し合い支援に繋いでいる。困難な場合は、身振りや日頃の表情・行動から思いを推し量り穏やかに毎日が過ごせる様配慮している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、関係者に生活歴やこれまでの経過等についての情報収集を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人との会話や、職員からの情報も含めて現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族と職員が話し合いをしながら、現状把握をして、その人にあった計画作りを心がけている。	全職員が日常生活の中で多方面から気付いた事を話し合い、意見交換を行い現況に即した計画作りを行っている。状況の変化に応じ、医師と相談しながらその都度見直し、家族に連絡し、適切なケアに繋いでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録から職員間で情報共有し、よりよい支援の方法の模索をして、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズに対応すべく、柔軟な対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	1人ひとりの地域資源を把握し、有効に楽しめるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を最優先とし、かかりつけ医へは、職員が基本とし、受診する内容によっては家族が対応となる。かかりつけ医との応援体制ができている。	協力医療機関の、月二回の往診を受けている利用者が多い。専門科の受診には、家族の協力を得ている。受診時には、職員が生活の様子をまとめて家族に渡し、。受診後には家族から報告を受け、利用者の支援に繋いでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態の変化や気づきがあれば、速やかに訪問看護師と連絡をとり、指示を仰いでいる。また、普段から相談や報告をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院設備があるため、入院中の状態や、経過、また今後の方針を含めて、相互に情報交換できる関係である。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	サービス開始時に、重度化と終末期の対応について、できる事、できない事を説明し同意を得ている。本人と家族の意向を重視しながらも、適切な対応が図れるよう努める。	本人や家族の希望があれば、協力医療病院で最期を迎える体制を整えている。利用開始時や、その後も何度も希望を聞き確認している。事業所で最期を迎えた利用者もいるが、病院を希望する方には病院で対応してもらっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当の訓練は全職員が講習を受け身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い、昼想定、夜想定で実施している。職員が身につけるのはもちろんだが、利用者の意識付けを目標にしたい。	消防署の立ち合いの訓練を実施している。職員二人の介助が必要な利用者もいるが、月一回の訓練を実施し、避難手順の確認や、利用者への声掛け方法等が適切にできるようにしている。問題点や改善の必要があれば、運営委員会で話し合い、方法を検討している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人ひとりの人格を尊重し、職員の言動には十分配慮し対応している。トイレの声掛けなども、言葉使いは内容も含めて注意している。	利用者への声掛けは、必ずさんづけでしている。排泄管理表を利用しながら利用者に寄り添い、動機づけしてトイレ利用を促している。利用者のペースに合わせた誘導や、歩行介助を丁寧に行っている。利用者のできる事を探してもらい、満足できるように工夫している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の思いや希望がなかなか表現できない方に対して、思いを出せるように努めている。また、自己決定を尊重している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方のペースを優先し、希望に応じた生活リズムになるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容や洋服の選択なども、本人の意向を重視し、清潔感があるおしゃれができるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けなど、できることはお願いしている。職員は、安全に楽しく食事ができるように支援している。	いただいた野菜や季節の食材を使い、食べやすい献立作成を心がけている。オープンキッチンで料理しているので、利用者はのぞいたり、臭いを嗅いで、出来上がりを楽しみにしている。食器の後かた付けは、希望者が交替でしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスのよい食事を提供している。また、一日の食事量と水分量を把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その方の力に応じた口腔ケアの支援を毎食後行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて、それぞれの状態を把握して、その人にあった排泄支援を行っている。また、おむつ使用の方でも、トイレで排泄できるよう努めている。	動機付けとして、お茶や食事の前には、耳元でさりげない言葉掛けを行い、トイレでの排泄を促している。個々の状態に合わせパットの大きさを変えたり、オムツの利用者も日中は声掛けし、トイレでの排泄が出来る様支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物や運動で、できるだけ自然に排泄できるようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	できるだけ希望に合わせた入浴支援をしている。入浴を嫌がる方には、職員を変えたりタイミングをはかるなどして、安心して入浴できるようにしている。	利用者の希望に添って入る順番を決め、温度に注意し、入浴時間を決めて長風呂にならない様配慮している。個々の状態によって医師に相談し、保湿クリームを使用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時の体調やペースに合わせて休息できるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	それぞれの薬の内容や副作用を理解できている。また、きちんと服薬できているのかの確認も行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの役割について、日常生活の中のできる事や、やりたい事を実施してもらい日々生活している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望により、散歩したり買い物にでかけている。外泊は、家族の協力を得て行っている。	日常的には、体調に合わせ、事業所周りを思い思いに散策し、気分転換を図っている。家族と一緒にドライブしたり、内郷の系列事業所に、年1・2回遊び行き、利用者間の交流に繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	その方の希望や力に応じ、お金の所持・使用をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	時々電話のやりとりを行っている。手紙も届くので楽しみにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間・食堂には季節感のある手作りの作品を展示し、居心地のよい空間作りを心がけている。	清掃が行き届き清潔に保たれている。利用者の笑顔の写真やぬり絵・折り紙等の作品が飾られ、思い思いに日中を過ごす居心地の良い場所になっている。玄関には利用者が庭で摘んだ花を生け季節感を出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	限られたスペースの中で、独りになったり、気の合う方々で談笑している場所がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている。(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている。	自宅で使用していた馴染みの物(タンス・テレビなど)を持ち込んでいただき、その人らしく暮らせるような配慮をしている。	各居室に備え付けの収納庫があり、担当職員により季節の衣類や下着等が取り出し易いように整理され、清潔に保たれている。家族の写真や習字・ぬり絵等、自分の作品を飾ったり、位牌を持ち込んでいる利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや洗面所、居室については、混乱しないような配慮をしており、できるだけ自立した生活が送れる工夫もしている。		